

## 1. 八千代病院さんの施設見学や説明を通して感じたこと、印象に残ったことを書いてください。

### 病院の設計や設備に関すること

#### 【総合待合、玄関ロビー、外来待合】

- ▼ どうして正面玄関がまん中がないのか不思議に思ったが、駐車場が病院の建物をぐるりと囲むような配置になっているので、東の玄関と西の売店出入口の二カ所を設けた方が来院者に都合がよいとわかった。
- ▼ 待合いの長いすは特注品で、工夫がいっぱいだった。ワンタッチで出るキャスターで簡単移動、収納できる肘掛け、後ろ席のための手すり、点滴スタンド差し込み、交換できる横板など。災害時に背もたれを倒してソファベッドにするための新製品を開発中という。背もたれは色も柄も落ち着いていてよかったが、残念なのは座面の色。3色（赤・青・薄緑）あって元は場所別になっていたのが混じってしまったようだ。運用の効率を考えれば同じ物を大量注文した方が良かったのでは。
- ▼ 正面玄関を入れてすぐの部屋、車いすを置いてあったところに、少しで良いから待合の椅子があるといいと思った。高齢者など一人で行動しにくい人を車で連れてきた場合、駐車場に車を移動させる間、とりあえず座れる椅子があると、素早く車を移動させられるので助かる。上記の場合、もしボランティアの人が付き添いをして、総合受付の待合まで連れて行ってくれるのなら、それでも良い。
- ▼ 総合受付の待合椅子は、せっかく特注の可動なのだから、ベッドになるとより良いのでは？と思ったが、コスト面などで不合理な点があるのだろうか。
- ▼ 時間外に総合受付のシャッターが閉まるのは、安全であり、またコンサートのときなどは雰囲気をよくすると思う。
- ▼ ロビーのソファは考えられていてよかった。移動でき、ベッドにもなり、点滴もできる。災害時を考えてのことらしい。また、ソファの後につけられた手すりは、後の席の足の力の弱った人にとっていいと思う。
- ▼ 小児科の待合スペースも狭く、無駄がないと言えるかもしれませんが、ここで大人しく子どもたちは待っていてくれるのかな、と思いました。感染用の待合は増築の際改められると聞きました。大人用の感染待合も作るそうです。
- ▼ 良いと思った主なところは、各科が良い並びに配置されていることと、待合のソファが明るくて機能的にできていることです。
- ▼ ロビーはコンサート会場になり、移動式の特注の椅子など、ロビーから工夫が感じられた。
- ▼ 病院臭のない空調、圧迫感・ストレスのない空間

#### 【病棟・病室】

- ▼ 設計者の反省1「エレベーターが狭かった。」ストレッチャー用の大型は別にあるけれど、外来と病棟が共通利用するとなると狭いかも。感染症予防のためにも病棟専用エレベーターがあると良いと思った。
- ▼ 「病床は患者にとって医療空間であると同時に生活空間である」という認識に立って、

- 病院っぽい薬品臭の換気とかおいしい食事の献立とかに、とても気を遣っているようだ。
- ▼随所に緑があり、患者の心は和むだろうが、ベッド上の患者は動けない限り、空だけ見ることになる。窓の高さが問題。窓を低くすると空調の効率、安全上問題ありになりそう。今話題の「あなたへ」の小説にも入院中、空しか見えない、何とかしてほしいとあった。
  - ▼個室にシャワースペースが必要と痛感した。最近の若い方はシャワーが必要です。特に女性には必須であると強く感じた。
  - ▼病棟の突き出た奥が大きな窓になっていて、そこに、外を観渡たせるように机と椅子が配置されていた。
  - ▼個室は利用者の方のニーズに応じた広さやユニットが工夫されていて、入院患者の生活スタイルに合わせた対応がよいと思った。家具や収納も工夫され、トイレも全車いす対応などの配慮もされた病院であった。

#### 【特別個室】

- ▼特別室では、革張りのソファが目に付いた位で、室料に見合う金額とは感じなかった（この感覚が民間病院かな?）
- ▼高級な家具があり広い個室をみたが、まったく必要ないと思えた。
- ▼最高（1日¥25,000）の特別室を見せてもらったが、広すぎて無駄があると感じた。
- ▼特別個室、豪華。最後の看取りの時はこんな部屋がいい。しかし、通常の入院には、個室っぽい4人部屋という今のコンセプトのほうが、優れている。

#### 【デイコーナー、談話室、食堂】

- ▼病棟のデイコーナーの感じが良かった。食堂談話室といい、入院中苦痛にならない工夫は見習うべきと思う。
- ▼外来患者の休暇室があり、パソコンを使用できるようになっていたこと
- ▼隅っこだったが日差しにあたるデイコーナーで、理学療法士と軽くりハビリをやっていたところ。
- ▼病棟の食堂&談話室は明るく、ゆっくり出来る感じでよかった
- ▼病棟のあちこちにゆとりを持った談話スペースが設けられていた。患者同士のコミュニケーションの場として大事なことだと思う。ただ、大部屋でもカーテンを閉めっぱなしにしていたり、個室にこもりきりになったりする患者さんは多いと思うので、意識的なはたらきかけが必要になってくると思う。
- ▼3、4、5階にゆったりとした食堂談話室がありいろいろなことに利用できると感じた。
- ▼各病棟通路端にあるデイコーナー。
- ▼各階にライブラリーコーナーが設けてあった。
- ▼病棟の廊下が広くて、窓のあるところにソファや椅子・テーブルが置かれ、デイコーナーがたくさん設けられていた。各階にデイルームが隣り合って2カ所あり、1つは椅子なしの車いす用ルーム、もう一つは椅子のある談話室だった。以前に私が付き添った病院ではデイルームが1カ所しかなく、要介護者の食事に占領されていた。歩ける患者でもカーテンを閉めてベッドで孤食するしかなかった。また、付き添い者の居場所が無く、とても窮屈で体力的にも大変だった。八千代病院のようなゆとりを患者にとっての必需品ととるか贅沢ととるか、患者の声をしっかり聞く必要がある。

【廊下、壁面の掲示板・展示】

- ▼廊下が広く、そのあちこちに椅子があり、疲れやすい病人には、良いのではないかと思った。
- ▼通路が直交しているので、移動中に方向感覚が失われにくく安心できた。
- ▼壁面など、市民が描いた絵が飾られていた点
- ▼掲示板が多く、情報を提供しやすいように思った。
- ▼廊下が、ひろーい。→ 額が飾れて展示会場になっている。
- ▼廊下の壁面が絵画で飾られていて、素敵な空間になっていました。
- ▼通路に余分・余計な物がなく、広々と使われていた。
- ▼廊下の照明は、間接照明を主にし、色調を含め柔らかな照明がなされていた。この柔らかな照明の効果と思われるが、やさしい雰囲気全体に漂っていると感じられた。

【内装・照明、設備・備品】

- ▼椅子、カウンター、蛇口には、かなり凝った製品が使用されている印象であった。
- ▼ネット回線使用可能は今の時期は当然となってきた。
- ▼家具については高価なものより、シンプルで使いやすく、掃除しやすく、加えて清潔を保てるものが良いではないでしょうか。
- ▼病院の印象はコンパクトですが、テラスの緑や照明など優しさを感じました。
- ▼待合等の注文して作ったという長椅子が華やかで可愛い色遣いで、キャスター式に変えられるものもあり移動に便利（1脚70万円）。
- ▼椅子はオリジナルで移動しやすく使いやすくできていた
- ▼照明が明るさ、色、間接など細かい工夫がされていた。
- ▼食堂や壁面の掲示物、カウンター上の備品や置物にもこだわりを感じた。

【患者動線、駐車場】

- ▼患者の導線については、南生協病院と同様よく考えられていた。
- ▼導線は直線で見渡しやすいが、高い位置に案内板が少なく、診療科が分かりにくいのではないかと思った。
- ▼八千代病院も南生協病院も玄関前にバス停があった。当然！今の常滑市民病院、患者をどれだけ歩かせるんだ！
- ▼増築すると駐車場が足りなくなるといわれていた。敷地が狭いとそういう問題が出る。新市民は広いので、遠くに駐車すると、歩くのが大変。半田市立は立体にして便利になった。景観に遜色ない側に立体の駐車場はできないものか。

【屋上庭園】

- ▼屋上庭園に大きな木！がたくさん植わっていて驚いた。他の庭園にも木がたくさんあった。根を横に張らせて固定する処置をすれば、表土の厚さは30cmでいいとのこと。病院の周りは市街地なので、この緑の森は本当に目にやさしい。ただ、「虫が発生するので時々消毒をしないといけない。」そうなので、窓に近すぎる木はどうだろう。
- ▼屋上庭園があることによって外に出られない患者さんも風を感じることができる。
- ▼屋上緑化は今や必須と感じた。
- ▼窓からは絶えず緑が見え、また、全体的に明るく、院内環境の良さが目立った。

- ▼八千代さんの中庭は癒し効果大と見受けました。(贅沢ではあるが一考の価値あり)
- ▼どこの階からも緑が見えるというのは、とても心が安らぎ、病気も早く治りそうな気がします。退院を渋られる方の気持ちも分かる気がしました。
- ▼あちこちの窓から、植物が見えるような癒やしの工夫
- ▼環境都市安城らしくあちこちに緑化が施されていた。
- ▼緑が病室から見えるのは癒されて良いのはわかりますが、維持費等のコストを考えると必要ないと思います。建物の周りに木を植える程度で充分ではないでしょうか。
- ▼庭園が多く、中庭の部分が特に素晴らしかった。
- ▼病室の窓からは、庭園が眺められ、リハビリ室から庭園のウォーキングができるなど、独自の癒しの空間の工夫が感じられた。
- ▼緑化スペースがリハビリに有効利用されていることは素晴らしいと思う。
- ▼南生協病院でも花壇がボランティアの方々できれいに整備されていましたが、八千代病院でもコンクリートの上にこんな大木が育つのか？と感心する程の木々が育っていて、庭園が各部屋から鑑賞できるようになっていました。
- ▼各階ともに屋上庭園が楽しめてステキだった。

#### 【ユニバーサルデザイン】

- ▼階段のノンスリップと手すりが紅色で、白っぽい階段や壁とのコントラストがくっきりして、私の老眼でも見やすかった。
- ▼階段が歩きやすかった。白っぽい色と手すりステップの端の赤が、コントラストがはっきりしていてわかりやすくよい。高さもよかった。
- ▼南生協病院にくらべ手すりの導線が有効かつスムーズに感じられた。長椅子の背もたれの手すりは是非参考にさせていただきたいと思った。
- ▼男性が立って用を足せる手すり付き便器まであった、多目的トイレ
- ▼いやだなと思った主なところの一番目はトイレです。広さは充分だと思いますが、流すのがレバー式になっていて、力のないお年寄りや弱っている人、点滴中のために片手を使えない人には、ボタン式にしたほうが助かります。
- ▼多目的トイレの便座が高く普通以下の身長では足がつかない。
- ▼どのトイレも車イス可能。ドアも開閉が簡便そうだった。
- ▼水道の蛇口が、丸く下に伸びて固定されたものが多く、伸縮式のシャワー水洗がよいと思った。

#### 【付属施設】

- ▼新病院内併設予定の保険センター、検診センターとのかかわりは、市組織内に属しており病院とハード面、ソフト面両面共に一体運営が望ましいと考えます。(疫病、早期治癒予防の連携、人事交流、諸費用の軽減等効果期待大)、八千代さんでは、検診センターと人間ドッグ検診が組み合わされ一体感がありいいなと感じました。
- ▼総合健診センターは、診察室も含め、エリア自体、狭い印象を受けました。
- ▼コンビニ内が車いすで通れるよう広がったのは素晴らしかったが、その隣でなくて逆方向にレストランがあるのは疑問にのこった
- ▼365日営業のコンビニは8時から20時まで外から一般の方も自由に入れるようになっていた

【将来対応の設計】

- ▼設計者の反省2「設計段階で整合性を考えすぎると実際には窮屈すぎた。」というわけで増築予定。急性期中心から療養期にも対応するためだという。上に積むのか横に広げるのか、聞いておけば良かった。どんな建物でも長年使えばリフォームは避けられない問題だ。新市民病院は改築可能な柱の入れ方をする設計なので、ちょっと安心だ。敷地に余裕のある分は駐車場や花壇などとして残しておくべきだろう。
- ▼今井設計士さん中心に最良の設計をされたが、その後の月日の経過により問題点・課題が多く浮かび上がってきた。この一つ一つを今度の設計に活かさなければならない。「現在の最適・将来の不最適」となる。経験上、予測が難しければ余裕を見込んだ設計が必要となる。
- ▼開院後の院内レイアウト変更への配慮要。(部屋は大きく、壁は最小限に等)
- ▼24時間生活の場提供も大切。
- ▼将来の医療の姿を見据えて建設することは重要ですが、予測しきれない事態は起こりうると思います。八千代病院に増築スペースがあったことは、幸いだと思いました。
- ▼完成型より拡張型を設計コンセプトに位置付けることはこれからの時代変化の速度からいって必要不可欠の要素であると考えます。計画段階にない診療科目の増幅やスタッフボランティアの増加あるいは縮小や減少に備え、必要な場合の流動的設備配置転換が可能な設計プランを目指してもらいたいと感じた。
- ▼最初の設計に、「将来の医療の変化に対応できる余裕を見込め」というが、難しいが対応しておきたいこと。
- ▼病院の今井さんの話の中で、「設計を考え過ぎた。例えば、看護師や職員の数、機材も増え対応するために、来年増築することになっている。機能の変化に対応できる設計にすることが大切」と話された。この話を聞き、時代の流れの変化に対応できる設計、働く職員もほっとできる空間が大切なのではないかと思った。同時に設計は、細かく仕切ってしまうより、様々な場面に対応し、変化できる空間も必要だと感じた。
- ▼現在320床ですが更に100床増やす予定や、看護体制が7：1になり職員の増加に伴い更衣室の確保が困難な事を挙げて、看護部長が「病院の状況は色々変化していくので、将来を考えて拡張できるスペースの確保、余裕のあるものを！」とのお話は、病院は作ったら終わりではない！事を学びました。

【その他】

- ▼待ち時間削減のために院外処方主流であるが、八千代病院は全て院内処方だ。病人や高齢者は外の薬局まで行くこと自体が困難な人もいます。少し時間がかかっても1カ所済ませたい人もいます。本来なら患者の選択に任せるべきだろう。院外処方にするなら玄関から雨に濡れずに行けるくらいすぐ隣に薬局を作りたい。
- ▼慢性期医療への対応も見習いたい(ケアミックス、リハビリ、生活習慣病、高齢者医療)
- ▼お薬が、院内処方だった点(その訳は高齢者など、院外処方なら取りに行くのが大変になると考えたからとか)
- ▼やはり鉄骨造とくらベッドスペースの気になる点が少なかったと思う。またスタッフがスペースの有効利用に苦心している姿勢が窺われた。
- ▼救急車搬入スペースが広さと雨除け庇の機能を十二分にもっていると感じた。
- ▼血液浄化センターでは、スタッフステーションを中央に配置し、その周りにベッドを配

置しているところが良いなと思いました。

- ▼中央処置室の点滴を受けるスペースが狭いことと暗いこと
- ▼栄養相談室・ボランティアステーション・患者様ライブラリーは狭く、もう少しゆったりしたスペースがあるとよいと思った。
- ▼各病棟における、各病室の中心に配置されたスタッフステーションや血液浄化センターの中心に配置されたスタッフエリアのように、患者さんへの対応が迅速にできる設計だった。

### コミュニケーションに関すること

- ▼職員同士のコミュニケーションを大切にして改善のための意見を言い合える環境を作るため、人員の自前主義を貫いている。厨房から清掃に至るまで正社員（一部専門職は外部委託）。担当部署以外でも働ける人材を自前で育成すれば結果として仕事の質が向上するというわけだ。
- ▼設備や清掃は委託であるが、〇×のマニュアル評価だけではなく、普段のコミュニケーションを大切にしているという言葉が印象的。
- ▼案内していただいた建築士の今井さんという人に感動。「自分の仕事だけでなく他の所にも気を配りながら」という言葉が印象的。コミュニケーション日本一のためには人を大切にすることと同時に、人づくり（人育て）も大切であることを学んだ。
- ▼広報誌「やちよだより」は新常滑市民病院の目指す「コミュニケーション日本一」を具体化する一方法として、大変参考になる。ただ双方向の広報とするため、利用者の声も多く載せる必要があると思う。
- ▼休日に病院内にてミニコンサートなどを開催し、積極的に地域との関わりを持つようとしていることは大変参考となった。
- ▼入院患者、通院患者の満足度調査は、是非やっていただきたい。
- ▼病院内で働く全ての人、清掃担当やボランティアまで、心を込めて取り組んでいただけたことが、患者や家族の満足につながると思う。
- ▼ここでも、市民を病院に取り込む活動がされていました。
- ▼市民による、定期的なミニコンサートの開催
- ▼今井さんは病院職員さんとのコミュニケーションの場も積極的につくってみえるとのこと。見習うことだと思いました。
- ▼開院当初よりかなり職員数が増加されたということで、ロッカールームや事務のスペースなどが手狭になっているとの説明でしたが、実際に見学していても、そのように見えました。今後、新市民病院も限られたスペースの中でカンファレンスルームやロッカールームの確保がどのように工夫されるのか？と思いました。日本一コミュニケーションがよい病院を目指すには重要な事だと思いました。

### ボランティアに関すること

- ▼ボランティアルームの壁が可動式で、隣の図書室とつなげて広い部屋として使うことができた。小部屋がごちゃごちゃあるより使い勝手がよいと思った。壁の移動が簡単だと

いいけど。

- ▼自由度の高いボランティアが活躍していた。玄関ロビーの毎週末コンサートは地元のエレクトーンの先生による企画で、アマチュアに発表の場を無料で提供し続け、すっかり地域に根付いた。外来の廊下は絵画グループの発表の場となっていた。常滑は創作活動の盛んな街だと思うので、展示スペースを貸し出すといえは応募する団体がけっこういるのでは。
- ▼ボランティアの間に世代間ギャップがあるという。メンバーが固定化すると閉鎖的になる。新しい人材を加え続けるのは難しい問題だ。
- ▼ボランティアによる絵画の展示やコンサート（常滑にもエレクトーンは欲しい）
- ▼病院ボランティアの運営のために、ボランティアコーディネーターは事務長が担当しているとのこと。ボランティアの力や地域との関係を重視している表れであると感じた。我が新病院もボランティア活動を重視するなら、病院側の担当窓口もそれなりの人材を配置すべきである。
- ▼ボランティアセンターに求められる機能として、待機（休憩、控え）、更衣（作業用や舞台用衣装の更衣）、情報交換、打ち合わせ（ミーティング）、学習、研修等々が考えられる。整合性を十分顧慮して設計したが、結局狭すぎて拡張せざるを得なかったとの問題点を披瀝しておられた。我が新病院も必ずすぐに手狭になることが十分予測されるので、予算のぎりぎり許す限り、ボランティアステーションには余裕を持ったスペースを確保すべきである。また、コミュニケーションを大切にし、患者ばかりでなく地域住民との交流を重視するなら、エントランスホール内の一角にステージ確保（移動可能）は必須であると思った。
- ▼ボランティア活動では、毎週の定例コンサートは素晴らしく大変な活動と思ったが、それ以外は残念な状況と感じた。当院がボランティア活動を対応する時は、こんな状態にだけはしたくないですね。
- ▼プロ並みの方が絵画やコンサートのボランティアにかかわっていてすごいと思いました。
- ▼12年間にわたり毎日曜日にコンサートをしているそうで常滑も少しでもまねができたらと期待した。
- ▼毎週日曜日には、ロビーで演奏会等を開催し、患者さんをはじめ地域の方達も楽しみにされているそうです。毎週は大変だと思いますが、ここでもボランティアが全て手配、準備、運営までなされているそうで、ボランティアの大切さを実感しました。
- ▼地域ボランティアの管理によるリハビリ施設を兼ねた屋上庭園、病院通路の絵画、玄関ホールでの毎週日曜日のコンサートなど、患者さんに対するアメニティー重視の姿勢がうかがわれた。

#### 経営・運営に関すること

- ▼経営幹部が改善に向けて常に前向きな意識を持っている。常滑市立病院は、今は努力の真っ最中なのでやる気満々だけれど、何年か後にも意欲を継続できるようなバックアップ組織を作っておくべきだと思う。
- ▼自前主義—専門職職員（建築士がデザインしたイス、編集者が作った広報誌などや、システム管理も全て職員でというのがすごい!!)

- ▼病院経営上、経費節減するために業務委託が常識とされているが、委託業務を施設管理（清掃）と厨房のみとし、他は安易に委託に走らず、いろいろな工夫をして直営の努力をしているところは、大いに学ぶべきであると感じた。
- ▼院長の自前主義で医師確保に精力を注がれているようですが（産婦人科医8人）新病院においても最重要課題ととらえ、総力を上げて確保すべきと考える。
- ▼民間病院ということもあるが、医局側と事務局側との連携ができており、病院経営に関して一貫性を感じた。
- ▼自前主義、大いに結構。専門職の職員の活用、委託業者にも常駐の人を設けるなど、見習う点があった。
- ▼スタッフの確保は固定費削減からパート・アルバイト・ボランティア多用と適材適所活用（教育・訓練等必須）の検討要。両病院職員は民間扱いであり人件費は低く黒字に寄与。
- ▼“自前の職員”による、助け合いの連係プレーの良さも、今回の視察で垣間見ることが出来ました。職員のみんなで病院運営を支え合っている姿は、大変好感が持てました。

#### 基本理念に関すること

- ▼地域の基幹病院としての基本方針（地域に求められる、良質、人を大切にする）が素晴らしい。そのために色々な努力をされていることがよくわかった。
- ▼毎週のコンサート開催等、地域密着という点が前回見学させていただいた南生協病院と同じく大変すばらしいと思いました。地域の健康を支える病院として、来院された患者さんだけでなく、地域全体の健康を支えているという理念が伝わってくるようでした。
- ▼地域の医療機関や介護施設との連携の中で、増床計画を決定したという、地域連携により患者さんに最良の医療を提供する基本方針は、新市民病院においても、参考にする事柄だと思えます。

#### その他感想など

- ▼第一印象は「ホテルのような吹き抜け玄関やショッピングモールのような派手なガラス張りは無いけれど、落ち着いた雰囲気由来院者に安心感を与える病院」だと思いました。
- ▼公営と違う民間経営の長所が随所にうかがえて羨ましくも感じた。（例；ホテル並みの家具設置、室毎にデザインが異なる特別室の設計等）
- ▼松本院長を始め、話をしてくださった方たちのお人柄や熱意が感じられ、目に見えないこの部分が大事なのだなと感じた。特に今井さんの熱心さに感動した。常滑に今井さんは居るのだろうか。
- ▼そろそろ通る見学者は、病院スタッフにとって迷惑だと思うが、皆さん快く対応してくださった。教育が行きとどいているなと思った。
- ▼コンパクトでよく考えられた設計だと感じた。見学中、病棟でも人とあまりあわなかったのも、入院の稼働率はどのくらいなのかと思った。
- ▼朝食だけご飯とパンの選択ができるようになっていた。アレルギー対応はしているようだが、これだけ花粉症が増えていることを考えると、パンや卵の使用は回数を控えたほうが良い。まだ、悪影響だということを知らない人のほうが多いとは思いますが。また、情



緒不安定の人や眼科（白内障）の人は牛乳、乳製品を控えたほうが良い。牛乳・ヨーグルト・乳酸飲料の選択ができるようになっていたが、選択以前の問題を考えるべきと思う。地元野菜を使う工夫はよい。

- ▼院長のお話も良かったが、看護部長のお話が印象的であった。「入院患者は、24時間生活する場であり、治療する場です。」入院患者の生活が先で、この中で治療が行われる。この意識は感心した。
- ▼無駄がなく、とてもタイトで機能的につくられていました。
- ▼忙しい中、案内して説明していただいたことに感謝しますが、病棟の実際に看護している人の意見を聞けるとうれしかったのと思いました。
- ▼常滑市との交流が深く、事務局が交流していることは、結構なことと思うし、何より、相手が「どうぞどうぞ、なんでも盗んでいってください」との態度に驚いたし、ありがたい。
- ▼「改善」、「改善」が進んでいて、現状への不満を改善に結びつける習慣を学ぶべし。看護婦長が厳しさと優しさを兼ね備えていて、これが改善に結びついているのかな。
- ▼医療部分は医師・看護師さん、また患者さんや市民が利用する部分は細かいところまで生活に密着した女性がかかわらないといい病院に何らないと感じた。南生協病院の良さはそこにあると思う。創るまでは大変だが失敗してはいけない。使い勝手がよく、将来の変化に対応できる設計にしなければならないと思う。
- ▼八千代病院さんの皮膚科で「美容皮膚診療」を開始した話について興味深かった。今女性の間では、美容に関する興味は非常に高い。多くの助成の関心を引くと思う。このように、周囲に少なく、かつ話題の医学は病院の目玉になり良いと思う。周囲にない、医療は利用者増加につながると思う
- ▼八千代病院は、南生協病院の様な華やかさはありませんでしたが、患者さんの事を一番に考えながらスタッフの意見にも配慮し、新築移転して7年経った今でもより良いものを目指して進化している病院でした。
- ▼仕事中にも関わらず、院長、看護部長が歓迎してくださり、問題点を率直にお話してくださいました。先輩として、新病院に失敗して欲しくない！との思いが伝わってきて、有難く思いました。
- ▼今回の視察見学で、八千代病院の設計者今井さんはじめ多くの方々が、新病院に期待し、協力してくださっている事が良く分かりました。私たち市民がもっと協力し、より良い病院作りの為に、できる事をして行かなければいけないと強く思いました。
- ▼ナースステーション、リハビリ室どこでも大勢のスタッフが明るくキビキビと働いていました。安心感がありました。
- ▼どこかの病院のように自慢ばかり強調するのではなく、あえて失敗した事例まで披露していただき、常滑市民病院建設を心から応援してくれていることが伝わり嬉しかった。
- ▼病院利用者はもちろん病院で働く医療者や職員にとっても快適な場になるよう努力し頑張られていることに感動しました。特に看護部長さんの現場第一線だからこそその一言一言が心に残りました。
- ▼病院（診療所・保健センター等々医療にかかわる）に出向いた折、大半の時間は待ち時間に費やされ苦痛を感じます。この待ち時間を如何に短くするかの工夫を凝らす事が患者獲得、市民目線の新病院設計の優先度の高い課題と考えます。一方、待ち時間等病院内で過ごす間（含む入院・見舞い）の精神的苦痛からの開放感を施設設計でどう盛り込み、

- 和らげるかのサービス提供が同時並行して必要と考えます。
- ▼待ち時間が短くなるように考慮されているそうですが、具体的にどんな方法がとられているのか知りたいです。
  - ▼建物全体が機能的になるよう設計がなされていると感じた。